

「あなたの会費が国大化学会と大学・学生を支えています。」 会費納入の現状と今後の会費納入促進対策について（お願い）

会費納入促進 G

友常 薫（昭和 54 年電化卒）

坂本 泰一（平成 2 年物工卒）

本間 昭弘（昭和 44 年 2 部応化卒）

はじめに

昨今、同窓会の役割が、従来の卒業生の懇親会的位置づけから、大きく変化しています。すなわち、法人としての大学への参加協力、学生への具体的支援の比重が大きくなってきています。

私たち卒業生は、これらの変化を敏感に受け止めての活動が必要です。そのために、会費納入状況は、十分ではありません。皆様に、その実情を知っていただくとともに、今後の同窓会をより強固にしているようではありませんか。対策への御協力をお願いいたします。

（現状）

①同窓会の運営は赤字

平成 23 年度は約 100 万円の赤字、名簿発行を行った平成 22 年度は約 300 万円の赤字になっています。現在のところ、これまでの繰越金を切り崩して運営していますが、このままでは 5～10 年後には同窓会を存続できなくなります。

②会費納入者が少ない

赤字の原因として、会費納入が少ないことが原因の一つとなっています。平成 23 年度は、会員 4222 人のうち、会費納入者は 1765 人でした。

③連絡先不明者が多い

現在、連絡先がわからず、会誌が届かない方が 2834 人います。これは、卒業生の約 40%です。特に、平成卒の方の約 60%の連絡先がわかっていません。

（対策）

①連絡先不明者の掘出しと連絡先不明の防止

同窓委員の皆様をお願いしてクラスまたは研究室の不明者の住所を調べていただきます。また、会誌の送付時に、住所・氏名等の変更届用紙を同封します。抜本的には、卒業時に連絡先（親元を含む）を登録していただき、国大化学会事務局で保存する。

②会費納入の向上

会費の振込みは、郵貯銀行が中心になっていますが、銀行（横浜）振込み口座の方法も紹介しています。同窓委員の方に、他の会員の方に会費納入を呼びかけていただいています。

このような状況ですが、会費納入を促進するために、皆様から具体的対策などのご意見をお願いしています。

現在、会費の約 10%相当分を学生支援等に使っています。学生の学会発表にかかるお金の補助などです。これからの日本の将来を背負っていく横浜国大の学生を応援しようではありませんか。

国大化学会誌やホームページ、メルマガを通して、大学諸活動と国大化学会の協力例の紹介と学生支援状況の報告をしています。「**あなたの会費が国大化学会と大学・学生を支えています**」が会を発展させるための基本です。

ご理解頂き会費納入をお願いいたします。

（文責 本間）